

平成 29 年度

一般入学試験Ⅱ期

必須科目

試験時間 9：30～11：30（120分）

- | | |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 14 ページ |
| 2. 英語 | 6 ページ |

注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ③試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ④試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

健康科学大学
看護学部看護学科

1. 国語

※国語の問題は、全14ページです。

国語

1

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

この章では、アドラー理論と精神分析における他者や人間関係などの役割について論じてみたいと思う。

実際、アドラーの理論の中では、まず他者の存在が非常に大きな意味を持つ。たとえばアドラーは人間は他者と結びついて生きていて、一人では自分の目標を（ア）タツセイすることはできないと論じる。そして、人が他者と結びついて生きるうえにおいては「他人と同じである」という共同体感覚を持ち、他者に貢献できることに意味があると考え、他者との関係性の中で人間は進歩していくものであるという物の見方をしている。

また、人間の悩みをすべて対人関係の悩みと考え、人間の行動はすべて相手役が存在する対人関係であると言い切ったアドラーの言葉からもわかるように、フロイトが自分の心の中の自我と超自我とエス（注1）の葛藤を重視したのとは対照的に、他者との関係における葛藤や悩みというものをきわめて重視したと言えるだろう。

アドラーの理論の中でよく取り上げられる「劣等感」や、それが心の病のレベルにまで発展した「劣等コンプレックス」、あるいは人に勝とうとする「優越性の追求」なども他人と自分を比べることによって生じる心理であり、「A われわれが仲間と関わり、仲間と共生することに大抵失敗している」（『人間知の心理学』一〇頁）と語っていることから、心の問題や精神病理についてもアドラーが他者との関係性を重視した理論体系をもっていたことがわかる。これに対して、フロイトの場合は、初期理論においては無意識の性欲にまつわる葛藤、あるいは、エディプス・コンプレックス（注2）という根源的な罪悪感や、構造論においては、自我がエスに勝てなかったことから来る罪悪感、超自我に自我が勝てなかったときに生じる無意識的な罪悪感（これがうつ病などにつながる）といったように、自分の心の中の問題を重視したわけである。

かといって、フロイトが他人の存在というものを全く考えなかったかということ、そういうわけではない。たとえば幼児性欲の心の発達モデルでは、他人とおしっこを飛ばし合いなどをして自分が他人と違う存在であるということを感じたりすることや、エディプス期に父親に勝てないという体験をすることによって幼児性欲を（イ）セリブクさせるといった考え方をフロイトは提示している。しかし、現実問題としては、B フロイト理論の中心は他人と比べることよりは、自分の中での問題ということになるだろう。また、他者と比較して優越感をもつというのは、男根期という未成熟な発達状態の心理であるともしている。

共同体感覚や劣等感の理論のほかにも、アドラーは人生における他者への貢献や協力を学ぶことも重視しているわけだが、結局アドラーは、人間は他者との関係性を（ウ）カイヒして生きることができないという考え方を基本として、一人の人間から世界の中の人間へという進歩の方向性を考えたのである。ということで、やはりアドラーは対人関係というものを理論の軸にしていると言いうことができるだろう。

またアドラーは、自分にしか関心がない人たちを社会に関心を持つように仕向けていくこと、あるいは共同体というものに関心を持つように仕向けていくことが心の発達の方向性として重要だということも述べているが、これもアドラー理論の重要なポイントである。

心の発達、自我の成長ということに関してはフロイトも実は、似たような理論を提示している。すなわち、「自体愛」「自己愛」「対象愛」というふうに三段階に分けたモデルを示しているのである。

〈中略〉

このようにフロイトは、自体愛、自己愛、対象愛という三段階の心の発達モデルを考えただけだが、ここには対象という概念はあっても、社会という概念はない。アドラーの場合は、自分勝手というような意味での自己愛に近い状態から、他人や社会に関心を寄せるようになる状態に、あるいは他人や社会に貢献するようになる状態にというように、C心の発達の方向性が社会的なものになることを重視している。このことからわかるように、アドラーの理論は常に他者だけでなく、社会というものも非常に重視した理論体系になっているとすることができる。その一方で、それは社会に従えということではなく、対等の関係であることも説明している。

もう一つ、アドラーの理論体系の中で特徴的なものとして挙げられるのは、父親や母親（これは精神分析でもその影響が論じられる）以外に誕生順位がその人の性格やライフスタイルを決定する大きな要因になっているという点である。

たとえば第一子は概して（エ）キンベンで努力家だというようなこともアドラーは言うわけだが、これはあくまでもそういう傾向があるという話であって、単に何番目に生まれたからそういう性格になるということではない。要するに、生まれたときからその人自身の個性というものは持っているのだが、兄弟は互いに影響し合い、誕生順位によって異なる心理状態を経験しながら基本的な性格みたいなものが生まれていくという考え方である。また親の対応次第でそれは変わり得るとも考えている。

いずれにせよ、アドラー理論においては、人間の心の成長は対人関係の枠組の中でのものである。対人関係の中で性格というものが生まれ、対人関係の中で成長し、さらには対人関係の中で悩みが生まれ、対人関係の中で劣等コンプレックスが生まれ、そしてそれが心の病理になっていくというように、人間の心というのは、対人関係、すなわち他者との関係性というものが前提になっているという理論体系なのだと言ってよいだろう。

今述べたように、アドラーの理論の中においては、対人関係というものが重視されており、その中で病理や人間の発達というものも作り出されるという考え方をするわけだが、Dここでアドラーが非常に大事だと考えたのは、「リアルな体験」である。

フロイト理論の中では、夢に代表される心的内界のファンタジーや無意識というものが重視されるが、アドラー理論ではリアルな人間関係やリアルな出来事というものが重視される。治療の（オ）ギボウについても同じで、たとえばアドラー理論の中で非常に重視される「勇気づけ」を行うにあたっては、相手の心の中の解釈ということよりも、リアルな人間としての治療者のアドバイスを重視するわけである。

アドラー理論では治療者と患者は対等の関係にあるという考え方が基本にあることから、治療者は上からの目線で患者を叱つたり褒めたりすることよりも、同じ目線で相手を勇気づけて再び

自信を取り戻すように配慮していく。これは基本的には、リアルな人間である治療者が患者に自信を取り戻させてあげるという考え方であり、そのために実際に優越性の体験をさせてあげるという方向につながっていく。

フロイトの精神分析では、転移（注3）というものを通じて、治療者は、むしろ相手のイメージであって実際の人間ではないという考え方で治療が進むのであるが、アドラー理論の治療では、患者にとって治療者は本当に今いる先生であり、今いる他者であるという形で進んでいくことになる。

また、精神分析においては、治療者である分析家は転移の受け皿という側面があり、通常では到達できない患者の無意識を探究していくことが重要になるため、非常にハードなトレーニングを受けた特別な人間でなければならないとしているが、これに対してアドラーはむしろ、リアルな人間としてどんなふうに接したらいいかというテクニックを親や教師などに教えていくことを重視していることから、E 普通の人間による治療が可能という考えを持っていたと言つてよいだろう。

このように、リアルな人物として相手を見るということがアドラー理論の重要なポイントになるわけだが、一方、精神分析のほうはどうかということ、少なくともフロイトや古典的な理論では、現実的な面よりも内的なものを重視していると言つてことができる。

（和田秀樹著『アドラーと精神分析』より抜粋。なお、原文の小見出しを省略した。）

注

（注1） 自我と超自我とエス——フロイトの精神分析における精神の構造論で述べられる用語である。精神は、無意識的な本能エネルギーの源であるエス（イド）と、自己を外界の現実的制約に合わせて調整することでより良い適応を図る自我、そして自我機能を道徳的な方向に誘導する超自我の三層で構成される。フロイトはこの三層の相互作用が精神現象を作り出すとしている。

（注2） エディプス・コンプレックス——フロイトが提唱した精神分析の基本概念的のひとつである。男児が異性である母親に愛情を、同性である父親に敵意を無意識のうちに抱き葛藤する感情のこと。

（注3） 転移——精神分析の概念で、患者が治療者に対して過去の重要な対人関係を無意識的に再現した感情や非合理的な感情を向けてくること。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) タツ**セイ**

- ① 食べすぎないように**セイ**セイする
- ② 新しい校舎がラク**セイ**した
- ③ 今までの貸し借りを**セイ**サンする
- ④ 議会に条例の制定を**セイ**ガンする
- ⑤ 漁師をして**セイ**ケイを立てる

(イ) セン**タク**

- ① 裏路地のバーには**セン**キヤクがいた
- ② 勇敢な**セン**シの役を演じた
- ③ 紛争地域に安全**セン**ゲンがでた
- ④ その**セン**タクは正しかった
- ⑤ 港に原子力**セン**スイカンが配備された

(ウ) カイ**ヒ**

- ① その議案はキヨ**ヒ**された
- ② 落葉からヒリヨウを作る
- ③ 防災の日にヒナ**シ**ン訓練に参加した
- ④ 官公庁にはヒミツ文書がある
- ⑤ 未知のヒコウ物体を見た

(エ) キン**ベン**

- ① 会社からキン**ゾク**二十五表彰を受ける
- ② 会場にキン**パク**した空気がただよう
- ③ アクセサリーによるキン**ゾク**アレルギーが増えている
- ④ 父はキン**ゲン**実直な人である
- ⑤ 友人からキン**キョウ**を知らせる手紙が届く

(オ) ギ**ホウ**

- ① 人類はみなドウ**ホウ**である
- ② 芸術は自然をモ**ホウ**する
- ③ コンパスで**ホウ**イを確かめる
- ④ 定期点検が**ホウ**レイで定められている
- ⑤ 将来の**ホウ**フについて語る

問2 傍線部A「われわれが仲間と関わり、仲間と共生することに大抵失敗している」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **6**。

- ① われわれは他者と結びついて生きるうえで、他者と同じであるという共同体感覚を持つことから、仲間内ですべてを平等にしなければならないと考えて失敗する。
- ② 人間の生き方として他者に貢献することに意味があるが、貢献の仕方によっては他者との軋轢を生んでしまうため失敗する。
- ③ 人間の悩みはすべて対人関係から生じることが多く、われわれは日常生活の中で強く主張する他者の行動や考えに振り回されてしまう場合が多いため失敗する。
- ④ われわれは他人と自分を比べることによって、自分が劣っていると感じて劣等感を抱いたり、あるいは人に勝とうとして優越性の追求をするために失敗する。
- ⑤ われわれが他者との関係を重視するあまり、自分の無意識的な心の中の根源的な罪悪感を重要視していなかったため失敗する。

問3 傍線部B「フロイト理論の中心は他人と比べることよりは、自分の中での問題ということになるだろう」とあるが、この内容の具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **7**。

- ① フロイトは自身が他者と比較されることを好まなかったため、精神分析の手法で自己の内面を掘り下げ、無意識の根源を追求して自分の心の中を問題にしている。
- ② フロイトは自分の心の中の自我、超自我、エスこそが、対人関係の悩みの根源であり、時としてうつ病などを発症するので、これを最も解決すべき心の問題としている。
- ③ フロイトは構造論で自分の心の中の自我、超自我、エスの葛藤を重視し、無意識的な罪悪感がうつ病などの発症につながるというように自己の内面での問題を重視している。
- ④ フロイトは幼児性欲の発達モデルで、子供が他人とのおしっこを飛ばし合いをすることも他人との比較ではなく自己の内面にわき上がる意識として問題にしている。
- ⑤ フロイトは、他者と比較して優越感を持つというのは未成熟な発達段階であるとし、成熟して無意識の境地を得ることで、自己の内面の問題を解決できるとしている。

問4 傍線部C「心の発達の方向性が社会的なものになることを重視している」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① アドラーは、人生において他者を信頼するという心の発達が、一人では生きていけない人間にとって、社会的な心の発達に有効で必要不可欠な要素であると考えている。
- ② アドラーは、一人の人間と関係性を持つだけでなく、世界の人間と関係性を持つことが心の社会性の発達に有効であり重要であると考えている。
- ③ アドラーは、自分にしか関心を持たない人にボランティア活動を促すことで、社会に関心を持ってもらい社会とつながることで心の発達の方向性を決めることができると考えている。
- ④ アドラーは、自分にしか関心を持たない人に共同生活を送ってもらうことによって、他者との関わりの中で心の発達が社会的な方向に向かうようになることを重視している。
- ⑤ アドラーは、自分勝手という意味での自己愛の状態から、他人や社会に関心を寄せたり、他人や社会に貢献できるような状態になることが、心の発達の方向として重要であるとしている。

問5 傍線部D「ここでアドラーが非常に大事だと考えたのは、『リアルな体験』である」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① アドラーの理論では、人間の心の成長は現実世界の対人関係の枠組みの中で育まれるもので、それらの体験から性格が作られ、悩みというものが生まれる。したがって、他者との関係性のリアルな体験こそが人間の発達に重要であると考えた。
- ② アドラーの理論では、人間の心の成長は両親とのリアルな体験の中で生まれ、また兄弟の数も性格の形成に重要であるとしている。したがって、家族という他者との関係性の実体験こそが人間の発達に重要であると考えた。
- ③ アドラーの理論では、現実世界の対人関係の中で悩みが生まれ、これが劣等コンプレックスという心の病理にまで発展することがある。このリアルな体験を克服することこそが、心の成長につながり人間の発達を促すと考えた。
- ④ アドラーの理論では、対人関係や社会とのつながりから人間の心の発達が促されるとしている。このことから、他者と積極的に関係性を持つために、リアルな現実である社会に出てボランティアなどの社会貢献をすることが心の成長につながると考えた。
- ⑤ アドラーの理論では、フロイトがあまりにも夢や無意識という自己の内部を重視するので、これに対抗する意味で現実社会を強調しているのである。アドラーは、夢や無意識が人間の心の発達を促すことはないと考えた。

問6 傍線部E「普通の人間による治療が可能という考えを持っていた」とあるが、この内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① リアルな人間である治療者が患者に優越性の疑似体験をさせてあげることを通して、患者の行動を修正し治療することが可能であるという考えを持っていた。
- ② 治療者は患者と対等な関係を持ち、同じ目線で患者を勇気づけ、患者に自信を取り戻させるという観点から、親や教師という普通の人間による治療が可能という考えを持っていた。
- ③ 親や教師は患者をよく知っており患者も身近な存在として言うことを聞きやすいため、親や教師がテクニックを身につけることで、治療が可能であるという考えを持っていた。
- ④ 治療者は普通に存在する人間であることが重要であるため、身近にいる先生や、隣人が治療者となることが望ましいという考えを持っていた。
- ⑤ 治療者は通常では到達できない患者の無意識を探求しなくてはならないため、非常にハードなトレーニングを受けた普通の人間だけが治療できるという考えを持っていた。

2

次の文章は、外山滋比古の随筆『思考の整理学』の一節である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

知的活動には三つの種類が考えられる。

- ①既知のことを再認する。以下、これをAとする。②未知のことを理解する。これをBとする。
③まったく新しい世界に挑戦する。これをCとする。

これを読むことに関連つけて考えると、すでに経験して知っていることが書かれている文章を読んでわかる 때가Aに当る。よく知っている土地のことを書いた文章を読んだり、実際を見て知っているスポーツの試合についての記事を読んだりするとき、その理解はこの再認になる。

読む側に、知識あるいは経験が先にある。そのあとから、同じ、ないしはよく似た知識があらわれる。両者を関係づければ「わかった」という自覚になる。もともと基本的な認識の形式であるけれども、これだけでは既知のことしかわからなくなってしまう。

どうしてもBの未知を読む能力が求められることになる。これは、前の再認と違って、下敷になるものがない。新しい世界に直面する。多少とも了解不能の部分があるはずである。その溝を飛びこえるには、想像力によるほかはない。いくらAの読みに習熟していても、それだけではBの読み方ができるとはかぎらない。両者は質的に違う。

読書が人間にとって未知の世界への導入となりうるのは、Bの読みができるからである。その意味でたいへん重要なものであるのに、一般にAとBとの区別がはつきりしていない。したがって、AからBへの移行はどうしたらできるのか考えられることはまれである。しばしば、Aだけにとどまって、それを読書のすべてであるように錯覚してしまう。

Aの読みは、知る、という活動であるが、Bはただ、はじめから知るといわけにはいかない。まず「解釈」が必要である。ことばを手がかりに、未知の世界へわけ入って行く。それで何とかわかれば、未知を既知とすることができるのである。

さらに、そういう解釈を拒むような理解の難しい表現もある。これがCの読みになる。どうしてもわかるのか。体当りである。一度や二度ではわかるわけがない。何度でもぶつかって行く。やがてすこしずつだが、おぼろ気にはわかってくる。(ア) 読書百遍、意おのずから通ず、というのが、このCの読み方である。おそらくそれはその人の考えにつよく色どられていると思われる。

かつては、漢文の素読ということをした。ただ、音声化だけを教えて、意味には触れない。幼い子どもにとって、完全な未知である。それをわかっていくのは、Bの理解というよりはCの理解に近い。禅僧が、公案(注1)を与えられて、長い間それをめぐって考えに考え抜き、ついには悟りに到達する。漢文の素読のねらいもいくらかそれに似たところがある。

いまは読者に親切な表現がつよく求められることもあつて、Cの読みに耐えるような本はほとんどなくなってしまう。読む人が自分の想像力、直観力、知識などをその限界まで総動員して、ついには、「自分の解釈」に至るといような思考的読書はきわめてすくなくなつた。

読書の必要を訴える声はしばしば耳にするけれども、多くそれは量的読書である。質的に見れば、ただ知るだけのAの読み、既知の延長線上の未知を解釈するBの読み、さらにまったくの未

知に挑むCの読みという三つは、はっきり別のものである。

これからさき、CをBの中へふくめて、未知を読むのと既知を読むのとの二つを区別して考えたい。

学校教育の読みはAから始まる。学習者のよく知っている内容のことばの読みを教える。既知についての読みである。この方法については現在だれも疑うものがないけれども、昔は、一足飛びに高度の未知を読ませる素読を課していたのを考えると、Aから始めるのが唯一の方法とは言えないことがわかる。

文字を読めるようにするのが、Aの読みである。これがなかなか骨であるから、一応、既知が読めるようにするのにも長い訓練を要する。そのために、ついBの読みのあることを忘れてしまう。お互いの受けたことばの教育をふりかえってみても、どこまでがAであり、どこからがBであるのか、はっきりしていない。

いつのまにかBの読みをしようとしていたのであるが、いつ、いかにして、AからBへの移行が行なわれたのか、明確ではない。それもそのはずである。教授者自身もそれがあいまいになっていて、いつこうに平気である。

A読みをしていたのが、突如としてB読みのできるようになるわけがない。移行の橋わたしがなくてはならない。それに役立つのが文学作品である。W国語教育において、文学作品の読解が不可欠な理由がそこにある。

物語、小説などは、一見して、読者に親しみやすい姿をしている。いかにもA読みでわかるような気がする。あまり難解であるという感じも与えない。それでは創作がA読みだけですべてがわかるか、というそうではない。作者の考えているのは、読者の知らないものであることがうすうす察知される。このとき、読者は既知に助けられ、想像力によつて、既知の延長線上に新しい世界をおぼろげにとらえる。こういうわけで、同じ表現が、Aで読まれるとともに、Bでも読まれることが可能になる。創作が独得のふくみを感じさせるのは、この二重読みと無関係ではあるまい。

実際には、しかし、このように簡単にAからBへの移行が行なわれてはいない。きわめて多くの読みの指導が、B読みを可能にしないまま、浅い意味での文学読者を育てるに終つてしまつているのである。

これはただ、言語教育の上で遺憾であるばかりではない。ひろく、われわれの思考、知的活動に大きな影響を及ぼしているのである。おもしろい文章というのが、ほとんどストーリーのあるものという日本の傾向は、抽象的理解力のひよわざと(イ)表裏をなしている。どうしてもゴシップ(注2)的興味ははんらんする。

文学作品が、Aの読みからBの読みへ移るのに欠かすことができないのは、前述のとおりであるけれども、読みは創作の理解が終点であつては困る。本当にBの読みができるようにするのが最終目的でなくてはならない。

それには、文学作品を情緒的にわかつたとして満足しているのではなく、「解釈」によつて、どこまで既知の延長線上の未知がわかるものか。そのさきに、想像力と直観の(ウ)飛翔によつてのみとらえられる発見の意味があるのか。こういうことがしつかり考えられていなくてはなら

ない。

Xそれは国語教育、読書指導にのみ委ねておくべきことではない。未知を知る方法がすべての知的活動の前提であるとすれば、広く思考と知識に関心をいたく人たちにとって大きな問題でなくてはならない。

母国語においては、既知と未知の境界がはっきりしかねる場合がすくなくない。Aの読みがBの読みと質的に異なることすら明瞭になっていないのはそのためもある。

外国語の理解においては、母国語に比べると、はるかに、Bの読みの部分が多くなる。未知の理解にとって、外国語の古典の読書が有効であるのは偶然ではあるまい。日本における漢文の素読は乱暴のようであるが、一挙にC読みの本丸^{ほんまる}に突入するような試みで、実際に、Yすぐれた未知を読む読者を育成したと考えられる。

西欧諸国においてわが漢学に当るものを求むれば、ギリシャ・ローマの古典がある。中世以来、長く学校教育の中で中枢の位置におかれていたことも漢学に通じるところがあり、偶然ではあるまい。

Zそれが言語教育にとどまらず、人間教育、知的訓練とほとんど等価なものでありえたことを、現代の人間は改めて考えてみるべきであろう。

注

(注1) 公案——禅宗で、修行僧が悟りを開くために研究課題として与えられる問題。

(注2) ゴシップ——個人的な事情についての興味本位のうわさ話。

問 1 傍線部 (ア) ～ (ウ) の表現の本文中の意味内容として最も適当なものを、次の各群のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 11 ～ 13。

(ア) 読書百遍

11

- ① 一冊の本だけでなく複数の本を読むこと
- ② たくさんの本を繰り返し読み返すこと
- ③ さまざまな著者や異なった分野の本を読むこと
- ④ 一冊の本を何度も繰り返し読み返すこと
- ⑤ ひとすじに読書に没頭すること

(イ) 表裏

12

- ① コインの裏と表のように、表と裏が一緒になってひとつのものを形づくっていること
- ② 物事には見える部分と見えない部分があり、片面だけを見ていても、全体がわからないこと
- ③ 人の発言には、理論的に整理された表の部分と整理しきれない裏の部分があること
- ④ 人には、他人に見せたい自分と他人に隠しておきたい自分とがあること
- ⑤ ある物事に対して、ある人の見解と他の人の見解が、全く逆であること

(ウ) 飛翔

13

- ① 想像力と直観を空中で結合させるようにすること
- ② 飛ぶ鳥が地面を見るように作品全体を解釈すること
- ③ 高い視点から想像力と直観をはたらかせること
- ④ 想像力と直観をはたらかせて未知を発見しようとする事
- ⑤ 想像力と直観を限界まで使い切ったあとに発見があること

問2 傍線部W「国語教育において、文学作品の読解が不可欠な理由」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 物語、小説などは、一見して、読者に親しみやすい姿をしているので、経験や知識を再認するAの読み方で創作の理解が可能であるから。
- ② 一般に、読書は未知の世界への導入となりうるが、Aの読みからBの読みへの移行はどいつたらできるのか考えられていることはまれであるから。
- ③ 作者が考えていることが、読者の知らないことであると察知されると、読者は作品中の同じ表現をAの読み方だけでなくBの読み方で読むようになるから。
- ④ 日本では、おもしろい文章というのが、ほとんどストーリーのあるものという傾向があり、抽象的理解力を必要とせず、AからBへの移行が簡単でないから。
- ⑤ いまは読者に親切な表現がよよく求められていることもあって、想像力や直観力を必要とするCの読みに耐えられるような本はほとんどなくなってしまっているから。

問3 傍線部X「それは国語教育、読書指導にのみ委ねておくべきことではない」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 学校教育の読みはAから始まるが、これがなかなか労力を必要とすることであり、一応、既知が読めるようにするのも長い訓練を必要とするから。
- ② AからBへの移行が、いつ、いかにしておこなわれたのか明確でなく、教授者自身にもそれがあいまいになっているから。
- ③ きわめて多くの読みの指導が、B読みを可能にしないまま、浅い意味での文学読者を育てることで終わってしまっているから。
- ④ 物語や小説のような文学作品は、あまり難解であるという感じを与えず、情緒的にわかつたとして満足してしまうから。
- ⑤ 未知を知る方法が、人間の知的活動の前提であるから、未知の理解や未知を発見することの意味は広く人々が考えるべき問題であるから。

問4 傍線部Y「すぐれた未知を読む読者を育成した」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 漢文の素読は、音声化だけを教えて、意味には触れないが、素読を何度でも繰り返すことで意味が理解できるようになる。この過程を通して未知に挑戦できるような読者を育成した。
- ② 漢文の素読は、何度も繰り返すことで意味が理解できるようになる。これは、未知を読む読者の育成に役立ったが、意味の理解はその人の考えかたにつよく色どられていた。
- ③ 未知を理解するためのBの読み方には、解釈が必要である。漢文の素読は、解釈をこぼむような理解の難しい表現もあるが、Bの読み方を習得するのに有効であった。
- ④ 漢文の素読を何度でも繰り返すということは、量的読書であり、思考的読書とは言えないが、Aの読み方からBの読み方に移行するための訓練となった。
- ⑤ 学校教育の読みはAから始まるが、かつて日本では漢文の素読が行われ、未知を読む読者を育成していたことを考えると、Aから始めるのが唯一の方法とは言えない。

問5 傍線部Z「それが言語教育にとどまらず、人間教育、知的訓練とほとんど等価なものでありえた」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 母国語においては、既知と未知の境界がはつきりしかねる場合がすくなくなく、Aの読みとBの読みとに質の違いが明瞭になっていない。そのため、西欧諸国ではギリシャ・ローマの古典学習が行われていた。
- ② 西欧諸国においては、ギリシャ・ローマの古典の学習が長く学校教育の中枢の位置に置かれていたが、それに相当するものとして日本においては漢学による語学学習が行われ、それが知的訓練として役立っていた。
- ③ 漢学やギリシャ・ローマの古典を学習することで、副次的に歴史への理解も深まるので、これらの古典の学習は言語教育としてだけでなく歴史の理解を通した人間教育としても役立っていた。
- ④ 漢文の素読は、一挙にC読みの本丸に突入するような試みであるが、西欧諸国においてギリシャ・ローマの古典教育が学校教育の中枢に置かれていたのも同様の試みであったと考えられる。
- ⑤ 漢文やギリシャ・ローマの古典を習得することは、未知を発見する力を高めることになる。そのため、これらの教育は言語教育にとどまらず、人間教育や知的訓練としての意味を持っていた。

問6 この随筆の中で、著者が強く主張したいこととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 読書によって未知を理解する能力を習得するためには、長い訓練が必要であり、学校教育だけで習得するのは困難である。そのため、文学作品の読解が不可欠である。
- ② 未知を理解し、未知の発見に挑戦することは、人間の本質的な知的活動の一環であり、読書によってこれらの力を習得することは、人間教育や知的訓練としても重要である。
- ③ 外国語を理解することは、未知を理解することである。そのため、外国語の古典を学ぶことは、既知を読むことと未知を読むこととの違いを理解するための有効な手段となる。
- ④ 新しい世界に直面すると、多少とも了解不能の部分があるはずである。既知のことと了解不能なこととの間の溝を飛び越えるには、読書によって育まれた想像力を用いるほかはない。
- ⑤ 読む側に、知識や経験が先にあり、そのあとから、同じ、ないしはよく似た知識が現れるとき、両者を関連つけて「わかった」という自覚になる。これが基本的認識の形式である。

2. 英語

※英語の問題は、全6ページです。

平成29年度 健康科学大学 一般入学試験Ⅱ期

問題の訂正

英語

問題冊子「英 - 3」 ③問4の問題文を下記のとおり訂正の上、解答してください。

誤 「Which...this summer.」

正 「Which...this summer?」

英語

1

次の問い（問1～5）の会話を完成させるために、（ ）内に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A: I got seven volunteers for the tomorrow's event.

B: Is it enough?

A: No, actually I need one more.

B: ().

A: Thank you. It would really help.

1

① You may fool out of me

③ You can count on me

② You can leave me

④ You should take me out

問2 A: You are late again.

B: Sorry, my train was late.

A: ().

B: Believe me. It is true this time.

2

① I don't see it

③ I don't have it

② I don't buy it

④ I don't find it

問3 A: I go to the local library a lot.

B: ()

A: I go there almost every day.

B: Can you take me there next time?

A: Sure, I will.

3

① How many?

③ How far?

② How soon?

④ How often?

問4 A: I missed the last bus.
B: I am sorry to hear that.
()
A: That would be great.

4

- ① Shall I give you a ride? ③ Can you give me a ride?
② May I take your seat? ④ Will you take me?

問5 A: Bob has not arrived yet.
B: I will call him.
Hello. Bob, where are you?
C: ()

B: Hurry up! The meeting starts in 5 minutes.

5

- ① No way! ③ I am in your way.
② I am on my way. ④ I am going my way.

2

次の問い (問1 ~ 10) の 6 ~ 15 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の ①~④のうちから一つずつ選べ。

問1 I live in a house 6 roof is blue.

- ① where ② which ③ what ④ whose

問2 Let's keep this secret 7 you and me.

- ① among ② between ③ in ④ on

問3 I can 8 hear you because it is so noisy here.

- ① hardly ② nearly ③ seldom ④ almost

問4 If she 9 studied hard, she would have passed the test.

- ① have ② has ③ had ④ have been

問 5 was her surprise that she started crying.

- ① So ② That ③ Such ④ To

問 6 Be sure to do it anything else.

- ① for ② during ③ before ④ after

問 7 He gave up after his baby was born.

- ① smoke ② to smoke ③ in smoking ④ smoking

問 8 you choose, you will be happy.

- ① Whichever ② Although ③ Despite ④ What

問 9 The students were more less interested in the story.

- ① but ② and ③ so ④ or

問 10 he fails this time, he has another chance within a month.

- ① Once ② Even if ③ Since ④ However

3

次の問い（問 1～5）の英文の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし番号で答えよ。

問 1 He is a great scientist, ① and ② who ③ is ④ more a good teacher.

問 2 You ① will ② lose an opportunity ③ until you make your decision ④ quickly.

問 3 He ① successful defended ② himself ③ against the criticism ④ from his peers.

問 4 ① Which is ② it ③ that you want to do ④ during this summer.

問 5 ① Both my wife and I ② am ③ fond of ④ going out.

4

次の問い（問1～5）の日本語の意味に合うように、それぞれ下の①～⑤の語句を並べかえて空欄に入れ、最も適当な文を完成させよ。解答は ～ に入れるものの番号のみを答えよ。ただし、文頭に来る単語も小文字で示してある。

問1 そんなことは二度としない。

I will () () () () () again

- ① thing ② do ③ never ④ such ⑤ a

問2 そのプロジェクトはやってみる価値がある。

() () () () ().

- ① it ② worth ③ the project ④ trying ⑤ is

問3 その組織は飢えた子どもに食べ物を提供している。

The organization () () () () ().

- ① with ② starving ③ food ④ children ⑤ provides

問4 これが私たちのやり方です。

This () () () () () it.

- ① is ② we ③ how ④ about ⑤ go

問5 午後は、雨が降りそうだ。

It () () () () ().

- ① like ② it ③ looks ④ rain ⑤ is going to

5

次の英文を読んで、下の問い（問1～4）に答えよ。なお、*のついた単語には注がつけてある。

Mobile phone addiction has become troublesome. People's overuse of mobile phone shows some signs and symptoms of (a), including spending excessive time and money on a device, being preoccupied with mobile communication, and using the mobile phone in inappropriate situations. A survey conducted in the U.S. in 2012 targeted 2,097 people over age 18, and 58% said they did not go an hour without checking their phones.

In Japan, this (b) has also been observed. In a recent survey, over 20% of people in their teens to thirties admitted that they were heavily dependent on their devices.

Among them, 21.2% (c) that they were on their smartphones over seven hours per day.

Such obsessive behavior can be observed in restrooms. In the U.S. survey, nearly 40% of the respondents claimed that they checked their phones in the restroom. In Singapore, it has been reported that 68% of the population take their phones into restrooms. A survey conducted in the U.K. found that two out of three people bring their phones into restrooms and check emails, browse* the Web, and play games. In Japan, mobile phone use in restrooms has been increasing.

According to microbiologist* Jason Tetro, there are between 500 to a few thousand bacteria for every square centimeter* in a public restroom. One study shows that a mobile phone carries more than 10 (d) as many bacteria as on most toilet seats. The combination of a restroom and mobile phone seems to pose high risks for human health. Exposure to such bacteria may ₁₎ result in the flu*, E.coli*, pinkeye*, or diarrhea*.

The horrific possibilities do not end there, however. There is another health risk for mobile phone users in restrooms: hemorrhoids*. One of the causes of hemorrhoids is sitting for a long period of time on the toilet. Without being aware of ₂₎ it, restroom mobile phone users tend to stay in the seated position for a long time.

注) browse: 閲覧する, microbiologist: 微生物学者, square centimeter: 平方センチメートル, the flu: インフルエンザ, E.coli: 大腸菌, pinkeye: 流行性結膜炎, diarrhea: 下痢, hemorrhoid: 痔

問 1 下線部の (a), (b), (c), (d) に入れるのに最も適当なものを, それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選べ。

(a) ① dependency ② defendant
 ③ devotion ④ development

(b) ① regulation ② rule
 ③ tendency ④ news

(c) ① acquired ② submitted
 ③ responded ④ required

(d) ① scores ② levels
 ③ values ④ times

問2 下線部の ¹⁾ result in と同じ意味のものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

35

- ① cause of
- ② find in
- ③ trace to
- ④ lead to

問3 下線部の ²⁾ it は何を示すか。最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

36

- ① 携帯電話を使用していること
- ② 便座には多くの細菌が付着していること
- ③ 便座に長く腰掛けていることが痔になる原因の一つであること
- ④ 携帯電話依存症になっていること

問4 本文の内容に合致するものを、次の①～⑧のうちから三つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。

37

38

39

- ① 携帯電話依存症は社会問題となっている。
- ② 日本における調査では全体の 21.2% が一日 7 時間以上携帯電話を使用していると答えた。
- ③ シンガポールの調査では 68% が携帯電話をトイレに持って入ると答えた。
- ④ 携帯電話利用者が増加している。
- ⑤ 日本では携帯電話をトイレに持ち込む例はあまりみられない。
- ⑥ 付着する細菌数は便座よりトイレに持ち込んだ携帯電話の方が多い。
- ⑦ 便座と携帯電話に付着した細菌により痔を引き起こす可能性がある。
- ⑧ 携帯電話利用者は手洗いをすべきである。